

最初の活動

二人が初めて出会った中学生の頃、そしてキノ・イグルーとして活動を始めた頃について、お二人に語って頂きました。

渡辺——中1の時、名前順でお互い距離的に対局にいたはずなんだけどいつのまにか仲良くなった。僕は引っ越してきたんで、誰も知らないし共通点とか接点とか全くなくて。壘の方はというと双子だったので、「隣のクラスに同じ奴がいる」って見に来られているような存在で。

有坂——双子って話しかけられやすいんです。話しやすいきっかけがあるんで。

渡辺——だからすごい目立ってました。

有坂——僕がサッカー部に入っていて、順也にサッカーの話をよく聞かれた。自分が好きなことを話すと楽しいじゃないですか。だからすごい楽しく聞かれたら楽しく返してたな、っていう記憶はあるんですよね。

(二人が映画の話を始めるはいつから?)

渡辺——それはもう成人式からですね。それまで全くしていなかった(笑)。

有坂——同じ団地内にはいるけど高校は別だったので。見かけておう、ぐらい。19歳で映画に目覚めて、映画の話がしたくてしょうがない。誰かと話したいと。そういえば順也映画好きだったな、って。成人式近かったな、話しかけようと思ったのは覚えていて。

渡辺——壘はサッカー専門学校に行っていて、たまに帰ってくる時に会っていたんです。金沢の映画好きの友達を連れて来ていて。ふたりは成人式以降距離を縮め、「映画」で意気投合していきます。

キノ・イグルーとして最初の活動をするきっかけは原宿のあるカフェでした。

渡辺——少し仕事をしていない時期があって。その時に映画好きを集めて毎週ミーティングをしようという会があって、原宿にあったオーバカナルっていうカフェに毎週集まっていた。その会の一人が急に映画館を始めると言い出して。聞くとカフェみたいな所を映画館に改装して、潰れた映画館か

ら座席とかフィルムとかを貰い受けて、35mmフィルム映写技師の資格を持っている人もいて。その人の仲間内で映画学校の人とか集めたら出来ちゃう。ちっちゃい小屋が21席しかない小さい映画館になる。ひな壇にもなっていない、今でいう初期のアップリンク吉祥寺に近い感じで。1,000人規模の映画館があった時代なんで、マンションの1室みたいな所でも映画館になるんだ、配給会社に映画のレンタル料を払えば出来るな、すごいって。

有坂——2003年に東京のはずれで上映会を開催しました。想いは、1930~1960年代のフランスで行われていたシネクラブです。シネクラブは個人で好きな映画を解説と共に上映するんだけど、ミュージカルだけ上映する場所もあったし、当時手に入らないはずのアメリカ映画ばかり上映する所もあった。映画への“愛”だけで成り立っていると思って、すごく心を動かされて。それを日本でもやりたかった。これがキノ・イグルー初のイベントでした。

こうして初のイベントが開催されましたが、まだ活動団体として名前がありません。日本語?何語?はじめて聞いた方はきょう思う「Kino Iglu」という名前の意味とは?